

平成 22 年度 霧多布湿原学術研究助成事業

霧多布湿原における

アカアシシギ *Tringa totanus* の生息状況

および河川沿いの鳥類相



特定非営利活動法人エトピリカ基金

霧多布湿原におけるアカアシシギ *Tringa totanus* の生息状況 および河川沿いの鳥類相

青木則幸、青木靖子、片岡義廣

特定非営利活動法人エトピリカ基金

目的

アカアシシギ *Tringa totanus* (環境省、絶滅危惧II類)は我が国では数少ない旅鳥とされていたが1972年に別海町野付半島で繁殖が確認され、その後風蓮湖周辺(根室市、別海町)、温根沼(根室市)、霧多布湿原(浜中町)などで繁殖が確認された。しかし、詳細な調査がなされないまま各地においてその個体数は減少しつつある(片岡, 1994. 日本野鳥の会十勝支部, 2010.)。この繁殖地の西端にあたる霧多布湿原においても近年、アカアシシギが激減しているものの具体的な調査はなされていない。そこで霧多布湿原を流れる河川に沿ってセンサスを行うことにより霧多布湿原のアカアシシギと一般鳥類の現状を把握し今後のモニタリングに役立てることを目的に調査を行った。

調査期間

2010年6月20日-21日

調査方法

霧多布湿原は中央部の高層湿原部分 803.46ha が「霧多布湿原泥炭形成植物群落」として、国の天然記念物に指定されているため今回の調査ではこのエリアに立ち入らないように湿原を流れる5本の川(一番川、二番川、琵琶瀬川、泥川、新川)を二人艇のシーカヤックを用いて可能な限り遡上した後、折り返して河口に戻りながらそのルート上の出現鳥類を記録するという調査手法を用いた。出現鳥類は8倍の双眼鏡を用いた目視と鳴き声の聞き取りによって同定をおこなった。本調査地はしばしば濃霧が発生し視界が効かないことが多く、更にシーカヤックは視点が非常に低く現在地の把握が非常に困難なためGPSによる調査ルート記録を同時に行った。



図1. 調査に用いた二人艇のシーカヤック

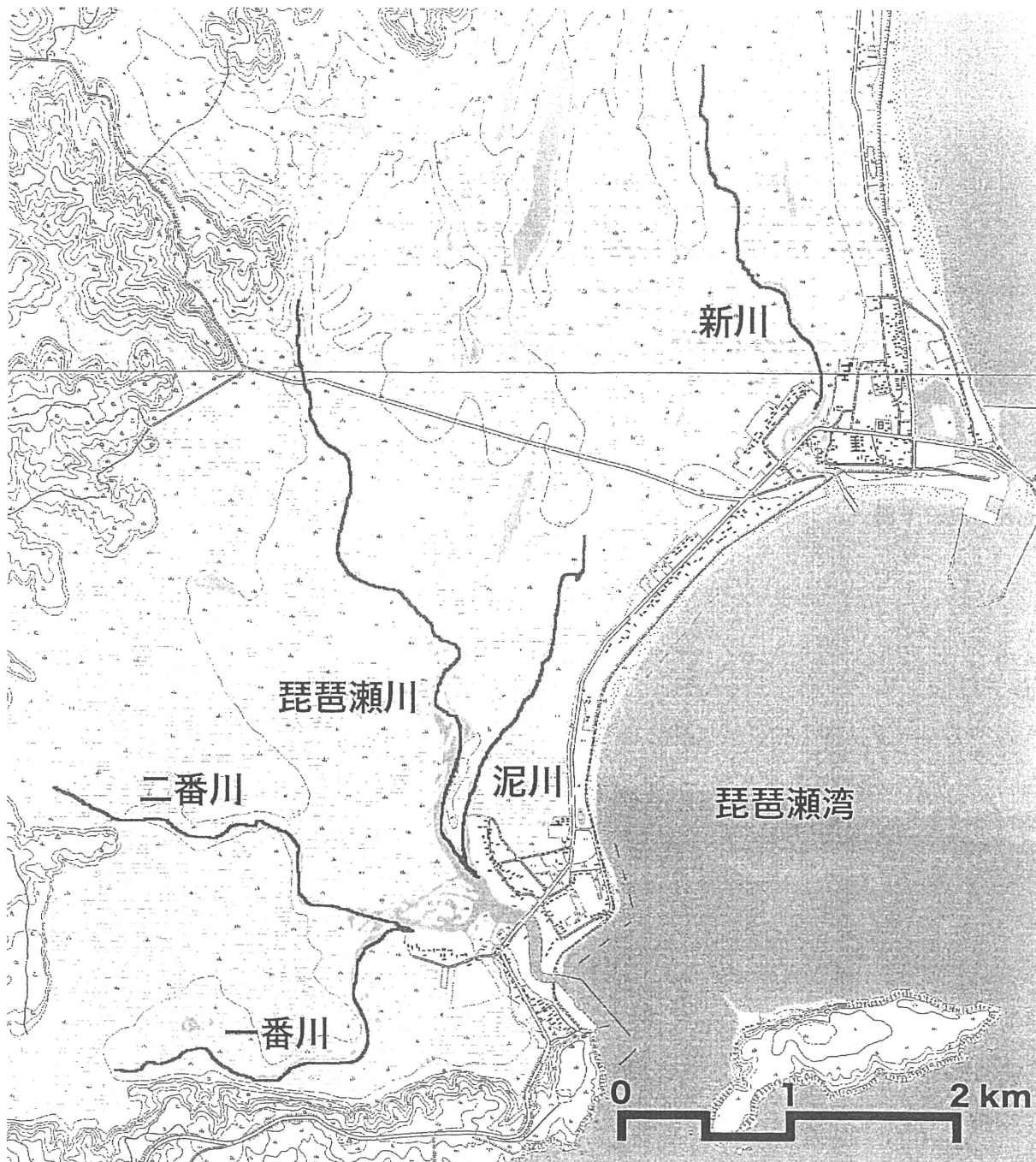


図 2. 各河川での調査範囲

結果

6月20日

一番川と二番川の調査をおこなった。琵琶瀬川河口右岸の集落の外れから調査を開始し、図 1. に示したルートをどちらの河川も往復した。各河川最上流部での反転はシーカヤックで航行可能な限界位置でおこなった。当日の天候と調査時刻は以下のとおり。

一番川 7:02-9:16 曇り(濃霧) 視界 300-500m 風力 0

二番川 9:30-11:11 曇り(霧) 視界 1500m 風力 0

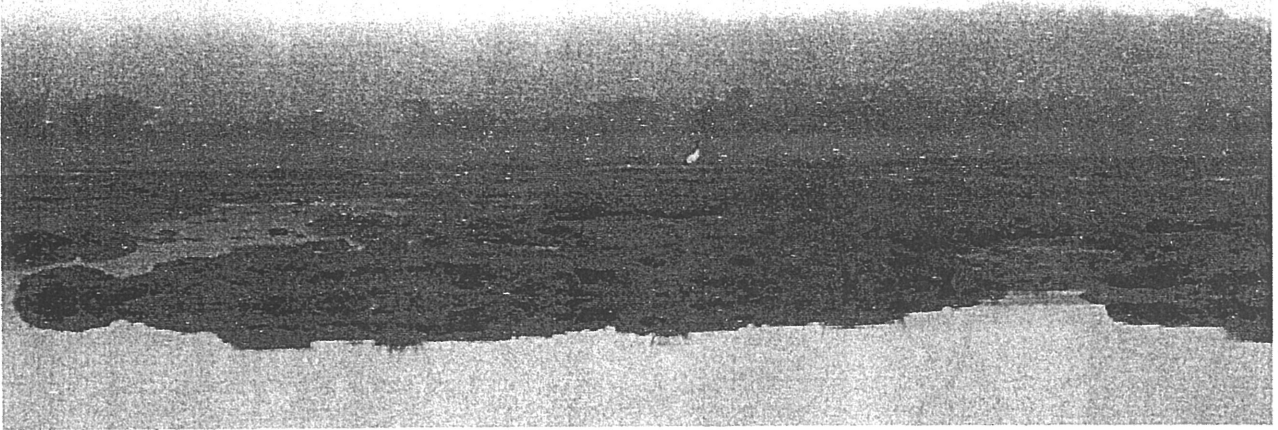


図 3. 一番川中流の干潟

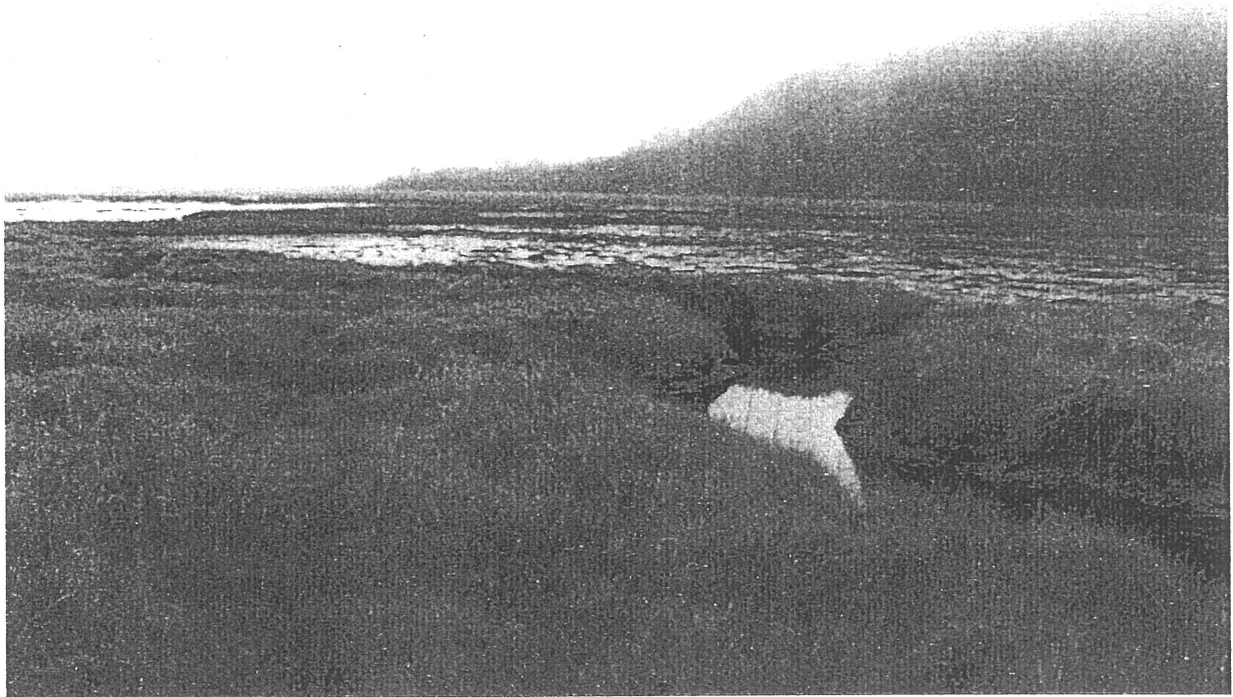


図 4. 一番川上流の干潟と段丘面の森



図 5. 二番川上流

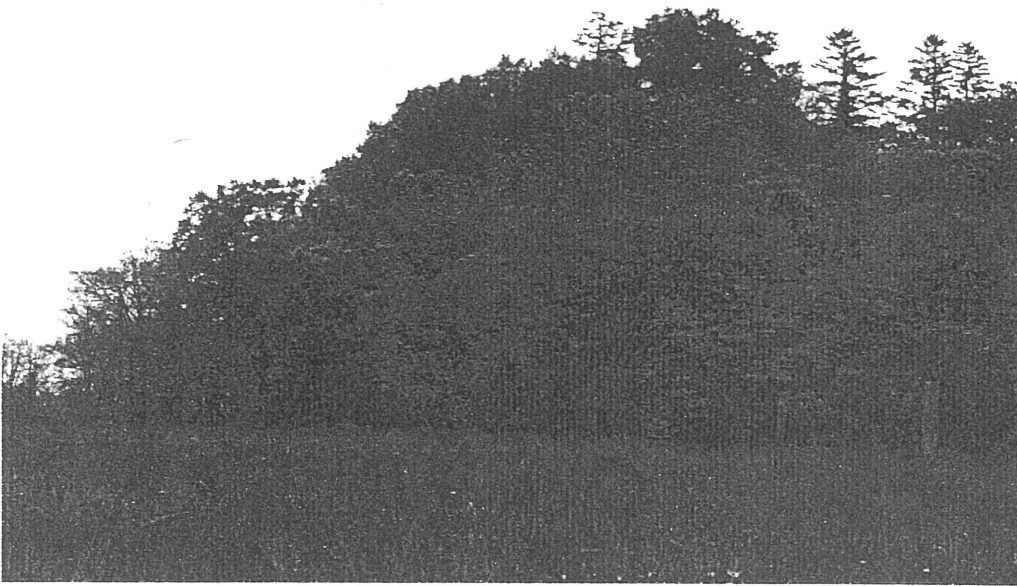


図 6. 二番川中流 オジロワシの営巣地周辺の森

6月21日

琵琶瀬川、泥川、新川の調査をおこなった。

天候と調査時刻は以下のとおり。

琵琶瀬川 6:21-7:24 曇り(濃霧) 視界 300m 風力 0

泥川 7:42-9:00 曇り 視界クリア 風力 0

新川 10:11-11:45 曇り 視界クリア 風力 0



図7. 琵琶瀬川上流



図8. 琵琶瀬川中流 アカアシシギ生息地付近

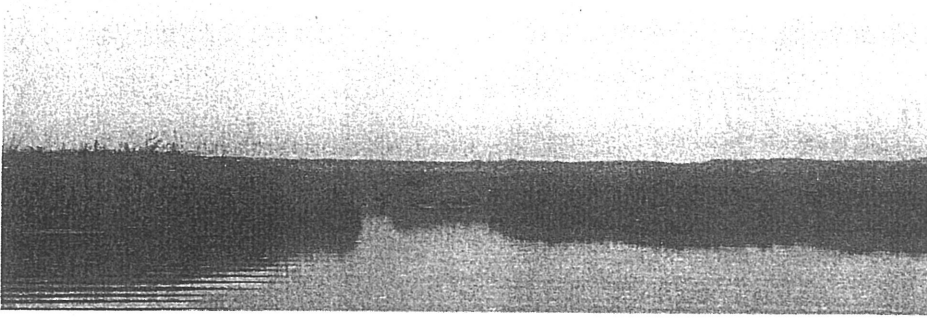


图 9. 泥川中流

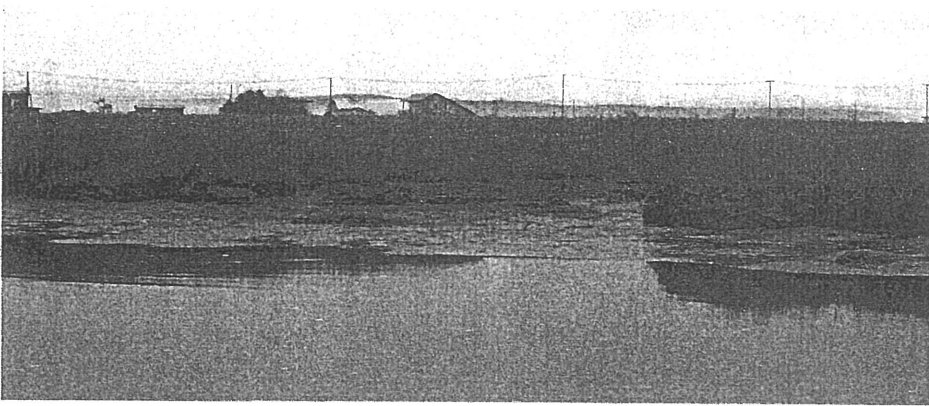


图 10. 泥川下流

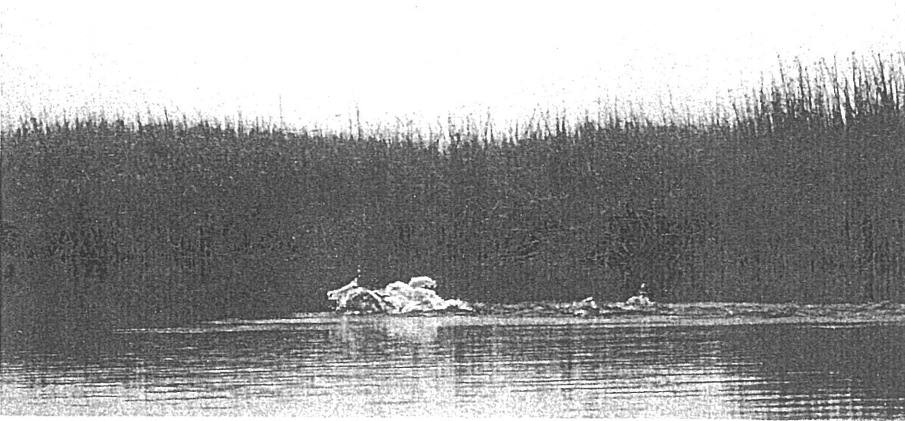


图 11. 新川中流

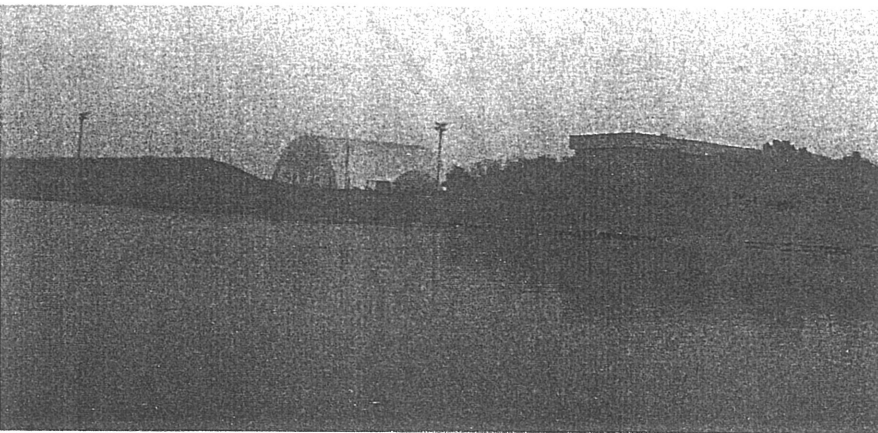


图 12. 新川下流

アカアシシギの出現状況

アカアシシギは河川合流河口の湿地(図 13)、琵琶瀬川中流(図 14)、新川(図 15)で出現した。

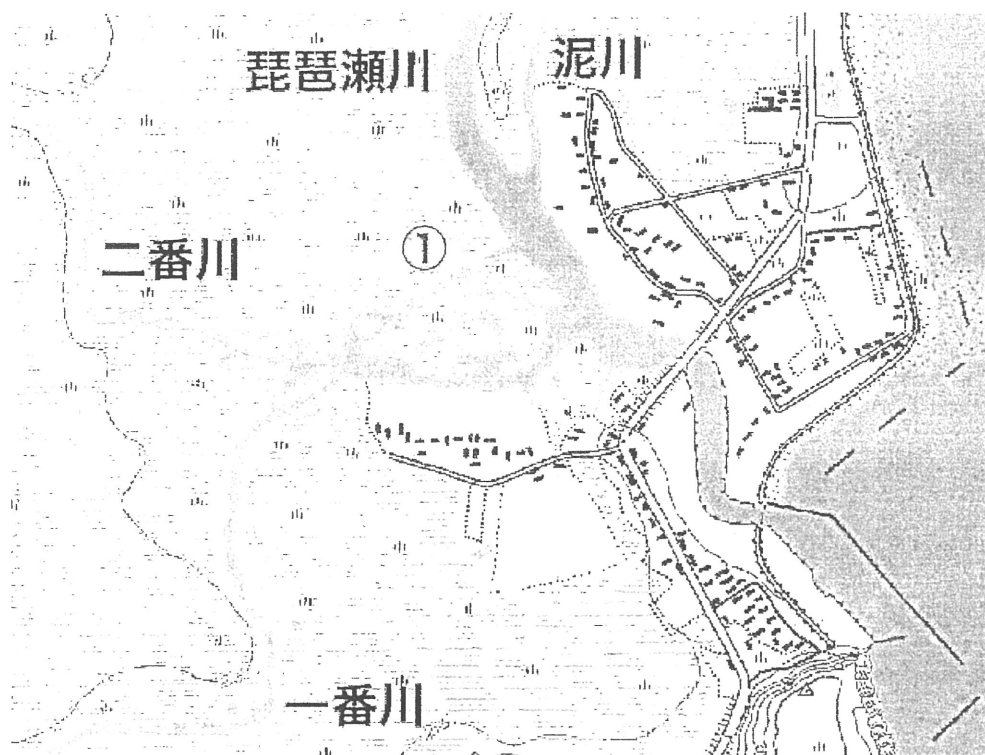


図 13. アカアシシギ出現点-1



図 14. アカアシシギ出現点-2



図 15. アカアシギ出現点-3

それぞれの出現状況は以下のとおり。

- ①6月20日、21日に河川合流河口の湿地にアカアシギ1羽の音声が確認された。
- ②6月21日にアカアシギ5羽の飛翔が確認された。警戒音を出していたので付近での繁殖の可能性が非常に高いと考えられる。
- ③6月21日にアカアシギ1羽の姿と音声が確認された。
- ④6月21日にアカアシギ1羽の音声のみが確認された。
- ⑤6月21日に川縁を歩くアカアシギ1羽の姿のみが確認された。

出現鳥類

全調査期間中44種の鳥類が確認された。全ての調査河川で確認されたのはマガモ、カワアイサ、オジロワシ、タンチョウ、ヒバリ、シマセンニュウの6種であった。

道東の他の地域に比べマキノセンニュウ(新川以外の4河川で出現)の個体数が多い印象を受けた。

各河川の鳥相の特徴は以下のとおり。

一番川：湿原のへりの段丘沿いを流れているためコマドリ、クロツグミ、キビタキ等の森林性の鳥類が確認された。また音声のみではあるがサンショウクイが記録されたことは特筆に値する。

二番川：上流部が段丘に接しているためかアオバト、トラツグミをはじめとする森林性の鳥類が確認された。上流部ではオジロワシの繁殖も確認された。

琵琶瀬川：湿原の中央部を流れているため草原性鳥類が主に確認された。また川沿いに灌木が点在しているためかうグイスが確認された。

泥川：人家の近くを沿うように流れているためかここでのみトビが確認された。

新川：海岸湿地の中を流れているため最も多い5種のカモ類が確認された。下流部は人の手が入り乾燥しているためかコチドリがここでのみ確認された。

目	種名/河川名	一番川	二番川	琵琶瀬川	泥川	新川	
ガンカモ目	マガモ	○	○	○	○	○	
	コガモ			○			
	ヨシガモ	○					
	オカヨシガモ					○	
	ヒドリガモ					○	
	オナガガモ					○	
	スズガモ				○		
	カワアイサ	○	○	○	○	○	
ワシタカ目	トビ				○		
	オジロワシ	○	○	○	○	○	
ツル目	タンチョウ	○	○	○	○	○	
チドリ目	コチドリ					○	
	アカアシシギ			○		○	
	オオジシギ	○	○	○	○		
	ウミネコ			○	○	○	
ハト目	アオバト		○				
ホトギス目	カッコウ	○	○	○			
	ツツドリ	○	○	○			
アマツバメ目	アマツバメ	○	○		○		
キツツキ目	アリスイ		○				
スズメ目	ヒバリ	○	○	○	○	○	
	ハクセキレイ	○		○		○	
	ビンズイ	○					
	サンショウクイ	○					
	コマドリ	○					
	ノゴマ					○	
	ノビタキ	○			○	○	
	クロツグミ	○					
	トラツグミ		○				
	キビタキ	○					
	ウグイス	○	○	○			
	エゾセンニュウ	○	○				
	シマセンニュウ	○	○	○	○	○	
	マキノセンニュウ	○	○	○	○		
	コヨシキリ	○	○	○	○	○	
	エゾムシクイ	○	○				
	センダイムシクイ	○	○				
	アオジ		○				
	オオジュリン	○		○	○		
	カワラヒワ			○			
	ベニマシコ		○				
	カケス		○				
	ハシボソガラス	○	○	○	○		
	ハシブトガラス	○		○	○	○	
	種類数	44 種	27 種	23 種	20 種	17 種	17 種

○ は一カ所では確認されなかった種

表 1. 霧多布湿原での調査河川ごとの出現鳥類(6月20日、21日)

考察

今回の調査はシーカヤックを用いての河川沿いのみの調査ではあったが、アカアシシギが繁殖期に非常に特徴的な大きな声を出して飛び回ることを考えると少なくとも霧多布湿原南部(MGロードより南)においては今回確認されたものがその大部分ではないかと考えられる。そのなかで繁殖の兆候が見られたのは琵琶瀬川中流部のみであったのは広大な面積を有する霧多布湿原としては少ないと考えられるのではないだろうか。

多くの沼が点在する湿原北部においては海岸沿いのごく一部である新川でしか調査できなかったため、アカアシシギの生息状況を解明するには更なる調査が必要である。アカアシシギの孵化時期である7月には親が雛を連れて広範囲を歩き回ることが考えられるため河川沿いのみでの調査でもより多くの個体が確認出来る可能性があるため今後はこの時期の調査も必要である。

また今後霧多布湿原においてより詳細なアカアシシギの生息調査を行うためには国指定の天然記念物になっており立ち入り規制のある高層湿原がアカアシシギの繁殖には不適と考えられるため、これを避けて海岸に沿って並んでいる10本以上の砂丘列上が歩行可能であればここでラインセンサスを行うのが最も有効であると考えられる。

謝辞

本研究は霧多布湿原学術研究助成の援助を受けて行ったものである。この機会を与えていただいた浜中町役場には深い感謝の意を表す。

引用文献

片岡義廣, 1994. 浜中町の鳥. 浜中町教育委員会, 浜中.
日本野鳥の会十勝支部, 2010. 北海道東部鳥類目録.